



枠	馬番	馬名	印	評価	結果	回顧
1	1	アルティマウエボン	△1	前走レディスプレリウドでは14頭立ての13番人気で3着の激走。前走のレディスプレリウドは別定戦だったが、今回はハンデ戦で軽量52キロ。連続好走しても全く驚けない。		
2	2	オルクスリアン	◎	ここに来てようやく本格化の兆し。2走前の適性外の大井1400mを除けば、B2→A2と連勝。どちらもただただ強い一言だったが、前走さざんか賞は今年船橋1700mで行われたA1～A2のレースでも速い時計だった。さざんか賞自体のレースレベルも非常に高い。JRA勢に一泡吹かせる。		
3	3	ブランシェクル	△3	前走JBCレディスクラシックで位置を取りに行ったのが裏目に。いつも通りじっくりと運んでいれば、ひとケタ着順には入れただろう。2走前のレディスプレリウドでは勝ち馬プリンシアコメータからタイム差なしの2着。牝馬限定のダートグレードで勝ち負けできる力をすでに証明している。		
4	4	ラモントルドール		名古屋のA2で善戦止まりなのであれば、南関東のB3くらいのレベルのはず。回ってくるだけで終わるだろう。		
5	5	タイムビヨンド	×2	クイーン賞は3年連続の出走で、過去2年は16年3着、17年5着と健闘。2年前は道営記念を制してこのレースに出走しており、当時と比べると、勢いも能力もないが、本命馬が人気薄である以上、少しでも可能性がある馬は押さえておきたい。		
6	6	ドンナディヴィーノ		1800mは距離が長い上、ダートグレードでは力不足。後方からじっくりと運んでバテた馬を交わすだけで終わるだろう。		
	7	アイアンテラー	○	前走JBCレディスクラシックはサルサディオネが競ってきたことで道中に息を入れることができず、前半1000m通過60.4秒のオーバーペースに。それでも同じように先行して敗れたサルサディオネ、プリンシアコメータには先着。ここに来て地力強化しているのは間違いない。		
7	8	ハービンマオ	△2	ハイレベルな3歳勢というだけで要注意。先週の師走ステークスは3歳のデーオーエナジーとチュウウウィザードのフツツで決まり、翌日のカベラステークスでは唯一の3歳馬コバノキッキングが差し切り勝ち。現在のダート路線は4歳以上が手薄なため、3歳勢の突き上げが簡単に起こりやすい。		
	9	プリンシアコメータ	▲	前走JBCレディスクラシックは4コーナーで手応えが怪しくなり、そのまま後退してしまったが、揉まれる形になって馬が自分で走るのをやめてしまった感じ。実質少頭数の地方ダートグレードではプレッシャーが少ないのか安定感がある。昨年のクイーン賞が圧巻の勝ちっぷり。舞台適性は高い。		
8	10	サルサディオネ	×1	同型アイアンテラーとテンの速さ、枠順の並びを考えると、行き切るのは難しそうだが、仮に2番手でも外枠から被されずに運べれば、粘り込んでも不思議ではなさそう。小回りの船橋1800mという条件自体は向いている。		
	11	ラインハート		昨年のJBCレディスクラシックでお世話になったのも今は昔。今年に入って馬に走る気持ちがなくなってしまった。苦戦必至。		